

【小中連携・連携授業】

第2学年 国語科学習指導案

1 単元 「人間のきずな」

教材 「盆土産」「字のないはがき」

2 指導観

○ 単元観 教材観

本単元の作品は、家族のふれあいを情緒豊かに表現された文学的文章である。人とのかかわりの中で心のきずなをもちたいという意識を持ち始める中学生にとって、自分の家族そしてその一員としての自分の存在を見つめ直す機会を与えてくれるものである。また、人間の生きる姿や人間関係が巧みに描かれた作品で、中学2年生という時期にふさわしい教材である。

本単元で紹介文に取り組むという活動は、「B書くこと」の「(カ)書いた文章を互いに読み合うこと」を具体化したものとなっている。

○ 生徒観

本学級の生徒は、男子18名女子19名の計37名である。比較的小となしいクラスである。本年度初めに行った学力診断のテストでは国語の分野ごとの結果をみると、男子はほぼどの分野も学年の平均であった。一方女子は全体的に学年の平均より低く、特に「読む能力」においては6点「書く能力」は4.5点ほど下回っていた。しかし、授業に取り組む姿勢は積極的であり、ノートも工夫して書いている生徒が多い。従って、学級の学習意欲を高め、集団の学習力を高めたい。

○ 指導観

人物の人柄と心情を読み取るために、文章の特徴に注意した読み方に重点を置いた指導をしたい。また、人物を効果的に紹介するエピソードとしてこの作品を手本とし、どんなエピソードを選び、文脈の中における語句をどう使うかなど、自分の文章を書くときの表現に生かせるように指導していきたい。そして、生徒同士の意見交換を通して文や文章を整え、よりわかりやすい文章を書くように導きたい。

3 小中連携の視点から

小学校の学習では、場面ごとに十分に時間をかけて、きめ細やかな読み取りなどの学習指導がなされてある。その結果、場面を読み取りながら内容や要旨を把握する力を付けてきている。中学校では、小学校で学んだことを個々の学習の中で生かし、各自でさまざまな視点から作品の主題を読み取り、自分の考えをもち、それを表現する力を付けることを目標としている。

中学校に入り学習を進める中で、自分の考えを素直に伝えることにためらいを感じる生徒が多くなっている。意見交換や話し合いが活発に行われなくなっている。そこで、自分の考えを表現しやすいよう、個々の生徒がそれぞれ課題に取り組めるような個人の学習活動と班での学習活動を取り入れた学習方法を工夫した。

4 単元の評価規準

- 目的をもってさまざまな文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。
【読む能力】(Cオ)

- 書いた文章を互いに読み合い、材料の活用の仕方について自分の表現に役立てることができ。
【書く能力】(Bカ)

5 単元の指導計画 (11 時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	観点：評価規準 ＜評価の方法＞
2	○「盆土産」の全文を読んで、学習の課題をもつ。 ○人物の様子や言葉からその人物の人柄や性格を読み取る。	・題名「盆」「土産」に注目し、学習の見通しをもたせる。 ・小学校で学んだことを生かして、人物の人柄や性格をノートに書かせ、発表する。	関：文章を読んで、人物の人柄をつかもうとしている。 ＜ノート分析・活動様相・発言チェック＞
2	○人物の様子や言葉からその人物の人柄や性格を読み取る。	・個人で書いたことを発表し、互いに意見交流をする。	言(1)ウ：多様な語句について意味、用法を理解している。 ＜活動様相・発言チェック＞
2	○父親と家族の心のきずなを考え、まとめる。	・それぞれの人物の性格から、互いをどのように思いやっているか、ノートにまとめる。	読：父親や家族の思いやりが読み取れて文章に書いている。 ＜ノート分析＞
1	○「字のないはがき」全文を読んで、初発の感想を書く。 ○題名から内容を想像する。 ○前半部分より父親の人物像を読み取る。	・父親の人物像に絞って感想を書くよう指示する。 ・小学校で学んだように題名から内容を想像し、内容全体の予想を立てる手だてとする。 ・読み取った父親の人物像を学習プリントに書く。その際、根拠となる表現も書く。	読：父親の人物像のについてつかみ、文章化している。 ＜学習プリント分析＞
1	○後半部分から父親の人物像を読み取る。	・父親が泣く場面では、父の心の中のセリフとして考える。	読：父親の人物像から心の中の言葉が書ける。 ＜学習プリント分析＞
1	○身近な人物を紹介する文を書く。	・「字のないはがき」が父親の人物像を効果的に表現しているエピソードを取り上げていることを参考にさせる。	関：エピソードを使って人物の紹介文を書くようとしている。 ＜学習プリント分析＞
本時 (7 / 11)	○班内で添削する。 ○班内で発表し、各自の文章のよかったところを発見し、伝える。 ○代表を決める。	・評価方法について手順を示す。 ・友達のアドバイスを受けることで、効果的な文章の書き方を学ばせる。	書：文章を互いに読み合い、友達の記事からよかったところを見つけている。 ＜学習プリント分析＞
	○全体発表会をする。	・各班の代表生徒の文章を聞き、今後の自分の参考とする。	関：友達の記事のよいところから、自分の文章の表現に役立てようとしている。 ＜学習プリント分析＞

6 本時 10/11 時

(1) 本時の指導観

前時までに「字のないはがき」を参考にして、人物がよくわかるようなエピソードを入れて自分の身近な人物を紹介する文を書いている。

その文章を小集団の中で添削させ、発表しながら、効果的な文の書き方、エピソードの選び方などを自分のものと比較させる。そうすることによって、目的にあった効果的な文章を書く力をつけさせたい。

(2) 主眼 書いた文章を互いに読み合うことによって、文章の内容が効果的に伝わるよう、書き方や材料の活用の仕方などについて学ぶ。

(3) 準備 ①教科書 ②ノート ③学習プリント ④付箋 ⑤感想用紙
⑥自己評価表

(4) 過程

学習活動・内容	○手立てや留意点 ◆〔観点〕評価<評価方法>				
<p>1 学習のめあてをもつ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 人物紹介の文章を班で発表しよう。 </div> <p>今日の学習の流れを把握する。</p> <p>2 一人ずつ自分の書いた作品を発表し合い、内容について感想を伝え合う。</p> <p>観点に沿って付箋に評価を記入する。</p> <p>評価の際の観点 (1) 選んだエピソードが、その人物の人柄を表すものになっている。 (2) 人物を表すのに効果的な言葉が使われている。</p>	<p>○学習の最後に、班内で選ばれた文章が次時の発表者となることを伝え、全員の興味・関心をひくようにする。 ○小学校で学んだ自分の書いた文章を読み返し、効果的な表現を工夫することの発展であることを伝え、意識させる。 ○前時に書いておいた文章を誤字、脱字、文法面での間違いがないかどうかを自分で見直し、発表の準備をさせる。</p> <p>○評価は、各観点につき付箋を一枚ずつ使って、記入する。 ○付箋には名前を記入しておく。 ○発表者以外は、付箋の内容を口頭で伝えた後、発表者に付箋を渡す。 ○発表者は付箋をもらい、自分の学習プリントに貼る。</p> <p>◆〔書〕友達の文章のよかったところを見付けている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">A</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">○書いた文章を互いに読み合い、エピソードが人物の人柄とつながっていることと、効果的な言葉を使っていることの両方を見付けている。</td> <td style="padding: 5px;">○書いた文章を互いに読み合い、エピソードと人物の人柄とのつながりか、または効果的な言葉の使用のどちらかを見付けている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>○Cの生徒への手だて 問いかけにより、文章の着目点を見付けさせるようにする。</p> <p><活動様相・発言チェック，ワークシート分析></p> <p>3 本時のまとめをする。</p> <p>4 次時の予告を聞く。</p> <p>○学習プリントを配布し、本時の学習から学んだことを記入させる。 ○アドバイスを参考に、書き直す部分は書き直しておくよう指示する。</p>	A	B	○書いた文章を互いに読み合い、エピソードが人物の人柄とつながっていることと、効果的な言葉を使っていることの両方を見付けている。	○書いた文章を互いに読み合い、エピソードと人物の人柄とのつながりか、または効果的な言葉の使用のどちらかを見付けている。
A	B				
○書いた文章を互いに読み合い、エピソードが人物の人柄とつながっていることと、効果的な言葉を使っていることの両方を見付けている。	○書いた文章を互いに読み合い、エピソードと人物の人柄とのつながりか、または効果的な言葉の使用のどちらかを見付けている。				